22世紀八幡ルネッサンス運動（略称：八幡ルネ）企画作業チームニュース

ひろば

目的　八幡市民の幸福の増進のために活動する。古い歴史を有する八幡の秀でた伝統を継承し、八幡市民の総意と英知を結集して活動する。町の隅々にわたり高い関心を払い、たくましい意志と情熱を貫いた粘り強い行動で、光とうるおいある生活と文化を享受するように努める。

■発　　行：22世紀八幡ルネッサンス運動
企画作業チーム ひろば編集部
■事　務　所：八幡市八幡高畑10-76
TEL/FAX075-981-6505
090-3710-4842
■橋本連絡所：八幡市橋本興正7-4　075-971-9488
■男山連絡所：八幡市男山指月1-12　080-3780-6140
■川口連絡所：八幡市川口東扇1-4
080-3775-8133
■振 込 口 座：京都中央信用金庫八幡支店
普通　5243582
22世紀八幡ルネッサンス運動

新年のごあいさつ

あけまして
おめでとうございます

八幡ルネッサンス運動も早いもので、今年で26年目になります。いろんな事柄に気づく時期になってきました。八幡ルネの歴史の理解もそのひとつです。

1998年にスタートして、2004年までは黎明期と言えるのではないでしょうか。

2005年から2008年までは雌伏期と表現されるのではないでしょうか。清掃活動が定着しつつあった時期です。

2009年から2013年は活況期と言われます。清掃活動や大谷川の清掃が活発に行われ、終われば交流会が開かれて宴会団体とまで揶揄された時期にあたります。

2014年から2018年までの期間は、下降期にあたります。仲間の輪が小さくなり、交流会も減ってしまいます。

2019年からは胎動期と表現するのがふさわしいかと思います。活動を引っ張ってきた清掃活動や大谷川の清掃が下降するのと入れ替わりに、ルネッサンス協会発行の「きずな」の充実が目立つようになります。それに共鳴するように、文化サロンの開催、わいわい発送塾の発足のほか、八幡クリーンアップ大作戦、八幡さんクリーン大作戦という新しい企画も生まれてまいりました。八幡ルネ役員会や協会理事会の役員参加が増え、議論も活発に行われるようになります。これを象徴するように、「ひろば」、「事務局便り」、「きずな」が相次いでカラー化されました。新たな活動が期待される予感が漂っております。

総じて26年間の活動の流れを通じて、持続性のあるものが源泉的な力になるということであり、単発的なものは、それ自体が成功したとしても、なかなか源泉的な力にならない、ということであります。

しかし、良いことばかりではありません。10年以上前には八幡ルネの寄付金等は1500万円ありましたが、現在は500万円まで落ち込みました。市に対しても補助金の要望を行ってきましたが、よい返事は得られていません。この重要な問題においても、源泉的な力を創りだしていかなければ、22世紀の八幡ルネッサンス運動はない、と考えています。

八幡ルネの活動にこだわったあいさつで、市民の皆様には心配をおかけしていると思います。けれど、これも大事なことであると思っております。

市民の皆様におかれましては、新型コロナウイルスが引き続き猛威を振るい、ロシアのウクライナ侵略で経済が圧迫され、それ以上に怖いとされる地球環境破壊が迫る中ではありますが、それでも、くれぐれも健康に留意されてお過ごし下さるようお願い申し上げます。

八幡26年1月1日（2023年）
呼びかけ人一同

《呼びかけ人》
伊藤錚治　田久保裕　福川粛　杉山恵美　村岡時男　天野みどり　石野喜幸　伊藤文彦　貝通丸哲也　所埜聖司　谷本信義　立花ヒロ　高橋千代子　神田長子　土井三郎　藤原洋日高幹夫　出口修　山口克浩　武田守治　堀江正彦　中野芳春　宇治川春子　中村久雄　窪田潤子　須藤邦弘　沢田三彦　猪飼康夫　中野玉美松川啓子　伊佐錠治　中井恵美子福田英正　佐藤長作　竹萬稔　田中和　杉山隆　小川和彦　鍋川浩二東龍一　藤田直子　吉川せい子
その他3名　のべ45名

《お願い》
日頃の八幡ルネの活動や趣旨にご賛同していただける「呼びかけ人」をお願いしております。

ご賛同いただいた方の行動は自由で、制限はありません。会費もございません。

私としてはなるべく多くの方々からご賛同をいただきまして、活動への励みにしたいと思っております。もし、都合により辞退したいとの申し入れがあった場合には、すぐに辞退として取り扱いさせていただきます。

呼びかけ人になっていただいた方は、夏の「暑中見舞い」と冬の「新年あいさつ」にお名前を掲載させていただいております。

呼びかけ人にご賛同いただけるお気持ちの方は、事務所か近くの会員までご連絡をお願い申し上げます。

八幡さんクリーンアップ大作戦記

年末恒例の「八幡さんクリーンアップ大作戦」が12月10日（土）に行われました。今年は11人の参加があり、八幡宮東側の東高野街道沿いの溝を清掃しました。スコップや鍬を使って溝に埋まった土や腐葉土化した枯葉、溝の隙間に入り込んだ根っこを、膝を曲げ、腰を曲げて掻きだすのは一苦労です。休憩を挟みながら時間内に終えたのは溝の3分の2程度でしたが、土のう285袋を回収しました。

作業をするたびに思うことですが、深い溝が道路とほぼ同じ高さまで土と枯葉に埋まっているので、雨水を流す役目はゼロです。体力的にも人数的にもここまでかと思っていたら、その後に、なんと作業できずに残した溝も綺麗になっていました。行政が私たちのバトンを受け取ってくれたのでしょうか？

水辺の文学 10

蛙はどのように詠まれてきたか

土井三郎

水辺の文学として、四季それぞれの自然や人間の営みを、和歌や連歌、俳諧を通して紹介してきました。今回、水辺の生き物の代表として「蛙」にスポットを当てて、それが時代の変転の中でどのように詠まれてきたのかを見てゆくことにします。

「花に鳴く鶯、水に住む蛙の声を聞けば、生きとし生けるもの、いづれか、歌を詠まざりける。」

これは、平安時代の初期に成立した『古今和歌集』の仮名序に書かれた一文です。この文章を承けて、同集には、読人しらずの蛙の歌が収録されています。

蛙なく井手の山ぶき散りにけり
　花のさかりに遭はましものを

他にもあります。

醍醐天皇（続後撰和歌集）
水底に春や来るらんみ吉野の
　吉野の川にかはず鳴くなり

厚見王（新古今和歌集）
蛙なく神南備河にかげみえて
　今かさくらん山ぶきの花

ここで詠まれている蛙は正しくは河鹿を指し、蛙とは違うという指摘もありますが、河鹿も蛙であれば、ここでは特に区別しないことにします。いずれにしても、和歌では「蛙」は鳴くものであって、それは連歌や俳諧でも同じでした。

ところが、江戸時代初期に事態は一変しました。

古池や蛙飛込む水の音　芭蕉

貞享三年（一六八六）春、たまたま芭蕉がこの句を得ると、たちまち評判になり、蕉門の仙化が編集した『蛙合』の冒頭に採用されました。伝統的・和歌的な蛙の把握から脱した芭蕉の句に倣って新しい俳諧の世界が拓かれたのです。

蛙啼や水玉浮かぶ春の水　樗良

芭蕉没後、蕉門は四分五裂し、享保期には混沌の時期を迎えたとのことです。だが、芭蕉の五十回忌を迎える頃に、芭蕉の詩精神への関心が高まり、「芭蕉に帰れ」と叫ばれるようになりました。そんな流れを受けて、明和・安永・天明（一七六四～一七八八）の頃には、いわゆる中興俳諧という大きなうねりとなって、各地に俳諧革新を志す俳人たちが輩出するようになりました。樗良（一七二九～八〇）もその一人です。

「蛙啼や」の樗良の句を吟味してみましょう。

ここでは「水玉浮かぶ」をどう解釈するかがミソとなるでしょう。水玉は、蛙が水に飛び込んだから出たものと理解されます。蛙が啼いたのは、春の水に飛び込み、その喜びから啼いたと解釈されるのです。つまり、「芭蕉に帰れ」と叫んだ中興期の俳諧の姿が示されているのです。

時代は、現代へ飛びます。

草野心平（一九〇三～八八）の「春のうた」です。

ほっまぶしいな。
ほっうれしいな。
みずはつるつる。
かぜはそよそよ。
ケルルンクック。
ああいいにおいだ。
ケルルンクック。
ほっいぬのふぐりがさいている。
ほっおおきなくもがうごいてくる。
ケルルンクック。
ケルルンクック。

まさしく、樗良の俳諧を近代詩に翻訳したかのようではありませんか。

『古今和歌集』の「仮名序」の一文を再掲します。

「花に鳴く鶯、水に住む蛙の声を聞けば、生きとし生けるもの、いづれか、歌を詠まざりける。」

三世代交流イベントに向けて

八幡ルネでは、遊びながらエコロジーや環境問題を考える「三世代交流イベント」の開催に向けて準備を進めています。八幡に住む子どもたちを対象に、アルミ缶を持ち寄って「空き缶ザウルス」を作ったり、自作のブーメランを飛ばしたり、火起こし体験をしたり、自転車のペダルを漕いで電気を起こしたり、専門家と一緒に体験しながら学ぶコーナーがまだまだあります。

オープニングでは和太鼓の演奏や、中学生のブラスバンド部による演奏も楽しめます。親子連れで、友達同士で、ぜひご参加ください！

日時：2023年3月21日（春分の日）
　午前の部／10時～12時
　午後の部／午後1時～午後3時
※雨天の場合、3月26日（日）に延期
場所：八幡市役所市民広場
主催：三世代交流イベント実行委員会（事務局団体：NPO 22世紀八幡ルネッサンス協会 22世紀八幡ルネッサンス運動）
後援：八幡市　八幡市教育委員会

●2月にチラシをお届けします。

みなさんのお便り、ご意見を募集しています！

「ひろば」は、その名の通り市民のみなさまの声が集まる広場です。
日常で感じたこと、困ったこと、聞いてほしいこと、見つけたことなど、
さまざまなお声を文章にして、ぜひ事務局へお寄せください。

事務局：〒614-8037　八幡市八幡高畑 10-76　22世紀八幡ルネッサンス運動
メール：shuku@presssarisari.com